

京都観光イベント2026 第一弾

『金剛能楽堂 能楽体験・能楽鑑賞』開催のご報告

同志社大学商学部父母会
京都観光委員会 小山こずえ

9月13日(日)、京都の金剛能楽堂にて 関西地区以外のご父母を対象とした「金剛能楽堂 能楽体験・能楽鑑賞」を開催いたしました。
今回、募集開始からわずか数日で定員を超えるお申し込みがあり、参加を希望されながら叶わなかった皆様には心よりお詫び申し上げます。



華やかで厳かな、特別な一日

当日は金剛能楽堂のリニューアル特別公演ということもあり、多くの来賓や会員の方が来場され、いつも以上に華やかで厳かな雰囲気となっていました。

午前：能楽体験

午前の体験では、能の歴史、能舞台、能面、能装束についての解説があり、衣装の着付実演を見させていただきました。
続いて、代表的な謡曲「高砂」を習って全員で謡う体験をした後に、順番に舞台へ上がり 舞の体験をしました。実際の能舞台に立つことで能の世界をより身近に感じることができたと思います。



参加者からは「角度による能面の見え方や衣装の着付など、普段なじみのないことを知ることができてよかった」「舞の体験は、ステップや腕の振りについていくのがやっとで難しかったです」が、能舞台に初めて上がることができてとても良い経験ができました」との声が聞かれました。



午後：能楽鑑賞

午後の鑑賞は、補助椅子を使用するほどの超満員となり会場全体が特別な雰囲気に包まれていました。



【演目】

狂言『素襖落（すおうおとし）』 茂山千五郎

能『半部（はしとみ） 立花供養』 金剛永謹 ほか

リニューアルを記念し、源氏物語ゆかりの名曲『半部（はしとみ） 立花供養』が上演されました。「立花（りっか）」は、室町時代に盛んに行われた「立て花」が発展し、江戸時代初期に池坊専好（二代目）によって大成された様式です。この日は次期家元池坊専好さん（四代目）により花が生けられ、伝統的な美の中に華やかさとモダンな趣を感じる見事な立花が舞台を彩りました。また、能面は豊臣秀吉が愛好したと伝わる「雪月花」の一つ「雪の小面」が使われました。能のシテ方 金剛永謹さんは人間国宝であり、人も物もすべてが特別な名舞台でした。

参加者の感想としては、「能楽について何も知らない状態で鑑賞したので、内容を理解するのが難しい部分もありましたが、日常とはかけ離れた能楽堂の厳かな雰囲気の中で能楽を鑑賞できたことはとても貴重な体験でした。」「初めて能楽を鑑賞し、独特の動きや音楽、衣装が印象に残りました。静かな中にも迫力があり、日本の伝統の奥深さを感じるとともに、非日常な世界観がとても素敵でよい経験になりました。」とありました。

今回の体験・鑑賞について

能というと、敷居が高く一人で観に行くのは難しいと感じるかもしれません。それを父母会として皆で体験・鑑賞でき、よい機会になったと思います。ご子女が学ばれている京の地の、伝統文化をご堪能いただけたのではないのでしょうか。

今回、特別公演にもかかわらず席を確保できたのは、早い時期にお話に伺うことができたこと、能楽堂と同志社大学のつながり等、いろいろなご縁があつてこの貴重な機会が得られたのだと思います。

これからもご縁を大切にし、会員の皆様に楽しんでいただける企画を考えていきたいと思います。

最後、終演時間がずれ込んだため 慌てて帰途につかれる方もいらっしゃいましたので、残ってくださったご父母の皆様と記念撮影をして本行事の締めくくりとなりました。

当日は想定外のことが多々あり、ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

このたびは遠いところ、ご参加いただき誠にありがとうございました。

